

豊橋市図書館開館 100 周年記念冊子

100の思い出



初代の豊橋市立図書館（花田町守下）

2014.1.15
豊橋市図書館

はじめに

豊橋市図書館は 1912（明治 45）年 4 月 1 日に創立、1913（大正 2）年 1 月 15 日に花田町守下に開館し、愛知県内初の市立図書館として開館しました。

県内の市立図書館では最古になります。開館以来、市民の読書活動を推進し、一般的な図書や郷土資料などの収集を図ってきました。現在では約 91 万冊の蔵書を数えます。

図書館では開館 100 周年を迎えるにあたって、利用者の皆さまから「図書館との思い出」を募集し、多くの方々から様々な「思い出」を頂きました。今回、お寄せいただいた思い出やエピソードを 1 冊の冊子としてまとめました。ご覧いただけましたら幸いです。

最後になりましたが、寄稿いただいた皆さまをはじめ、日頃から図書館をご利用され、ご支援されている方々に厚くお礼申し上げます。

平成 26 年 1 月 15 日
豊橋市図書館

目 次

100の思い出 ～図書館と私～

1. 永松三千生さん	5
2. 南場書人さん	6
3. 瓦十四三さん	7
4. 中部中学OBさん	8
5. 本野 栞さん	9
6. カ○コトさん	10
7. 地宗一郎さん	11
8. 匿名さん	16
9. 室谷益子さん	17
10. 太田幸市さん	18
11. 40さいの学生さん	21
12. 星に願いを☆さん	22
13. 本大好きっ子さん	23
14. 林 保宏さん	24
15. 片桐直彦さん	25
16. 狼Pさん	26
17. 山田ひろ子さん	27
18. クリームさん	28
19. 黄木輝彰さん	29
20. わおんちゃん	30

21.	稲田千晶さん	31
22.	西方明雄さん	32
23.	加藤國晃さん	33
24.	花飴莉さん	34
25.	けいこりんさん	35
26.	松橋未来さん	36
27.	ふうちゃん	36
28.	匿名さん	36

100の思い出～図書館と私～

100の思い出 ～図書館と私～

1974年2月、東京での大学生生活を終え帰省し、内定していた東海銀行への就職を断り、スイスを中心とする欧州放浪一人旅の準備を始めた。欧州各国の実情を調べるために向山大池町にある図書館へ足を運んだ。入ってすぐに目に入ったのが『クーデンホーフ・カレルギー伝』だった。なぜかその本が気になり気付くと夢中になって読んでいる自分がいた。その年の事、スイスで出会った人々と夕暮れのチューリヒ湖畔を歩いていると「あなたは日本人ですか」と声を掛けられた。背の高い老人だった。「私のお母さんは日本人でした」と言ったその老人に対して私は間髪を入れず「クーデンホーフさんですか」と言った。その人は、クーデンホーフ・カレルギー光子の一番下の息子で、向山の図書館の伝記の主人公は、上の兄で、汎ヨーロッパ論を唱えた人物だった。この奇想天外の出会いによって、私は『みんなの漢字 Kanji for Everybody-9ヶ国語訳』を世に送り出したのだった。

永松 三千生

100の思い出 ～図書館と私～

1962年、私が小学三年の冬、私たち一家はゴムの町福岡県久留米市から、母の故里豊橋へ引っ越してきた。九州弁丸出しの私は同級生にからかわれていた。唯一の慰めは、福岡小学校の帰り道にあった木造の図書館南分館で本を借り、家で裁縫をしている母のそばで寝そべって読書することだった。『二都物語』『三国志』『洮滸伝』など歴史に関する本が多かった。『源平盛衰記』を読書感想文に書き賞をもらったことは忘れられない思い出となっている。南分館には優しいおばさんがいて、そのおばさんと話をするのも楽しみだった。床は歩くたびに、ギシギシ音になった。やがて親しくする友人ができたことで図書館へあまり足を運ばなくなった。読書をする習慣は南分館で作られたと思っている。本を買う余裕のない家庭が多かった時代、図書館は大変有難い存在だった。還暦となった今、これまで以上に読書する時間が増え図書館へ通う日が楽しみとなっている。

ペンネーム 南場書人

100の思い出 ～図書館と私～

私は1934(昭和9)年豊橋市曲尺手町で、坂田孝の3男として生まれた。当時母親が玩具店を営んでいたので店の仕事が忙しく、休日などは長兄が私達弟の面倒を見ていた。長兄は父の影響を受けたのか、生来本が好きでよく公会堂横の図書館へ通い読書に励んでいた。図書館は私の家からさほど遠くなく、利用することには好都合であった。

私達弟は、休日になると長兄に連れられて図書館へ通った。その頃は空襲もなく、マンガや雑誌を見ていた平和な時代であった。

後期高齢者となった今、近くの配本センターや中央図書館へ気軽に通って本を読んだりすることができるのも、上記のような少年期の体験があったからである。亡き兄の思い出と共に感謝しているこの頃である。

子ども達の読解力が低下していると言われていたが、基礎となるのは読書である。幼児期から図書館へ通って読書する習慣を身につけることを薦めたいと思っている。

ペンネーム 瓦 十四三

100の思い出 ～図書館と私～

ミィ～ン、ミィ～ン、ミィ～ンと蝉が鳴く中学2年生の夏休みの暑い日、私は、初めて文化会館の学習室を訪れた。夏休みの宿題を自宅でやっていたが、当時、扇風機しかない我が家では、汗が拭いても拭いても滴り落ちて、なかなか勉強に集中できなかつたからだ。

学習室は、涼しさを求めて来ている学生でいっぱいだった。(なんだ、みんなこんな所で効率的に勉強しているんだ。)と思いながら、空いていた席に座って勉強を始めた。

周りには、黙ってひたすら英語の単語を書いている者がいるかと思うと隣の友人とひそひそ話をしている者がいたりした。

当時から40年余りが経過し、文化会館の周辺の環境が整備されたのとは裏腹に、建物の老朽化が目立つようになってきた。ただ、学習室の雰囲気は、昔も今もあまり変わってないようだ。文化会館の学習室に行っただけで、勉強をやった気分浸れた時代を懐かしく思う今日この頃である。

100の思い出 ～図書館と私～

トンボがスイスイ飛ぶ夏の午後、小学生だった私は某小学校の校庭で、わくわくしながら祖母と一緒に夢中で本を選んでいました。

古い記憶をたどると、あれは30年以上も前のこと。毎年、夏休みに帰省する田舎の町には月1回か2回、移動図書館がやって来て私は、そこで5冊の本を借りることが何よりの楽しみでした。その頃は確かバーコードを読み取るのではなく、白い図書カードに9ケタの番号を書き写していた気がします。祖母は80歳を過ぎる迄、寝る前に布団の中での読書を欠かさない本好きで、祖母のそんな姿を見て育ったせいか、私も暇にまかせて日中の暑い時間は文字を追い、涼しくなるとセミやカブトムシを追って過ごしたものでした。

本屋さんに行くには車で20～30分も走らないといけない田舎でしたが、今は亡き祖母と散歩がてらに本を借りに移動図書館に通った幼い日のことは、私にとって忘れられない思い出の1コマです。

ペンネーム 本野 栞

「こどもがほんを好きになったワケ」

自分が小さい時、家には本がたくさんあった。おもちゃが人んちよりも少なかったから本を読むことで広がる空想を楽しんでいました。

今、大人になって昔をふりかえることができる唯一の瞬間がある。それはいつでもあの頃に読んだ本を開く時、それは小さな自分と向き合わせてくれるかの様に心を弾ませてくれる。ちょうど2年生になった娘と年中にと子供たちがいるのですが彼女らもまた、本がだいすきな様です。住まいから近くに図書館があるおかげで1週間に1回は必ず行きます。

それでも足りない時は、子供たちだけでバッグをかかえていってきては10冊めいっぱいかりてかえってきます。そしてそれを1日でよんでしまうこともよくあります。だから、どこへ旅にいても図書館で本を読むって時間を入れたくなる程、我が家にとってなくてはならない場所のひとつです。いろんな本との出会いを増やして充実したじかんを過したいです。

ペンネーム カ○コト

逆縁もまた、縁！ 一旧図書館の思い出

公会堂の隣にあった、旧市立図書館が、私と図書館との縁を結んでくれた原点だと思っている。

ありし日の母の姿と重なる懐しい思い出もあるし、勉強に打ち込む充実感を味あわせてもらったのも、そこであった。

いささか個人的な事になって面映ゆいが、私が、やがて、図書館とのつながりを深めていく、きっかけになったことどもについて思い出すままに、記してみたい。

—「本が読める、いい所へ連れてってあげるで…」

母に連れられて、初めての図書館体験をしたのは、私が、小学校三年生の時であった。

当時、漫画に熱中していた息子の目を、少しでも、(まともな)読書のほうに向けたいという、母の計算があったに違いない。

一時間ほども歩いただろうか、やっと着いた図書館の背の高い樹木に囲まれてそびえる、そのいかめしいたたずまいに、田舎者の少年は、まず、足がすくんでしまったことを覚え

ている。

以下、おぼろげな記憶をたよりに、幼かった私の心象をたどってみると———石の階段、狭い通路、金網の奥のうす暗い書棚、ずらりと並んだ、カードのつまった引き出し、人がいるのに、静まりかえった、広い閲覧室、ひんやりとした空気と、鼻をつく臭い………どちらを向いても、威圧されるような、この雰囲気は、母の言葉から夢見ていた「本が読める、楽しい所」とは、似ても似つかぬ所であった。

いちばん驚いたのは、本も、勝手には選べない、ということだった。母が、苦勞しながら、カードを繰って選んでくれた、児童向けの物語の本は、さし絵もなく、活字ばかりで私は、それだけで読む意欲をなくしてしまった。漫画の本が一冊もないことも私には、おおいに不満であった。

母に、面と向かって、文句を言った覚えはないが、周りを気にしながら、息をひそめて本を読むなんて、ごめんだと思った。しかも、肝心の本を選ぶのにも、面倒な手続きがいるなんて———こんな所に、誰が来るもんか、というのが、図書館初体験の、私の正直な感

想であった。

私は、この後、しばらくの間、図書館は「陰気で」堅苦しくて「面倒くさい」所という、一途な思い込みに、しばられることになる。

母の目論見は、見事に失敗した。しかし、この、余り愉快でない体験を通して、幼い私の意識の底に、図書館という存在が、しっかりと刷り込まれたことだけは、事実であった。

やがて、私も、図書館とさまざまな形で付き合っていくことになるが、図書館一という心で浮かぶ、この体験は、私にとって忘れられない思い出の一つなのである。

図書館との縁が、ぐっと深まったのは、私が、高校の二、三年生の頃だった。図書館を自分の「勉強部屋」として使わせてもらおう、という、実に、うまい味を覚えたからである。

とくに、長期休業中などには、弁当持参で通うのが、常であった。幼い頃、気の遠くなるように感じた、図書館への道のりも、自転車の高校生にとっては、何という程のものではなかった。

家業の関係で、落ち着かない我が家に比べて、図書館の静かな閲覧室は、勉強に集中するには、もってこいの環境であった。幼い日、

足がすくんだ閲覧室が、これ以上ない、贅沢な勉強部屋になったのである。

利用者のなかには、常連さんも、少なくなかった。おなじみの顔が増えてくると、その人の不在が気になったり、時には勉強中も、勝手に相手を選んで、彼がやめないうちは…」などと、ライバル心を燃やして、頑張ったりなどしたものである。

独りだけであるのとは、また、違った緊張感につつまれての、こんな勉強は、手前味噌ながら、それなりにははかどったのではなかったか、と(自分では)思っている。

鉛筆をはしらせる微かな音、それとなく感じる、ページをめくる気配——それらは、あの、広く、どっしりとした机の感触とともに今も、思い出すことができる。

ところで、特別な場所に移動して、弁当を食べた、という覚えはない。とすると、勉強していた、同じ席で、食事もしたということになるが、そのことで、注意されたという記憶もない。

このように、居心地のよい場所で、自由に勉強させてもらって、私にとっては、まさに図書館サマ、サマであった。が、私達の知ら

ない所では、利用する若者たちへの、格別な配慮があったに違いない、と今にして、そう思う。

私が、旧図書館に、懐しさだけでなく、大いに恩義を感じている所以なのである。

その後、私も、生活や仕事の上で、図書館とは、さまざまな関りをもちながら、年齢を重ねてきた。とはいえ、まさか、この自分が後年、館長として、市図書館の運営に、直接参画することになろうなどは、思ってもみなかった。私と図書館との、深い「ご縁」を思わざるを得ないのである。

そもそも、私の心に、図書館へのこだわりが初めて芽生えたのは、あの旧市立図書館での「初体験」の時であった。考えてみれば、私の、図書館との「ご縁」も、そこから結ばれたことになる。

だとすると、あの時の、母の「親ごころ」も、まんざら無駄ではなかったんだなァ、などと、とうに七十歳を過ぎた今、私は、そんなふうに思ったりするのである。

地宗 一郎

100の思い出 ～図書館と私～

私には、とてもハッピーになれることがあります。それは本の中で見つけた素敵なフレーズ。

『ワーステキ!』『いいなあ! この言葉』感動し心揺さぶられる言葉との出会いほど、幸せな気持ちにしてくれるものはありません。一本以外の人やテレビ等色々ありますが一本の中で出会った素敵な言葉の数々。

それらの1つ1つは私を元気づけ勇気づけ幸せにしてくれるだけでなく、もっともっとたくさんの人に役立ってくれました。あの人にこの人にとセッセ、セッセとお手紙を書いては届けます。読んだ人がまたまたお友達に話し、コピーしてあげる。図書館で借りる本が大きな喜びの輪に広がっていくのです。1冊の本が皆をハッピーにしてくれる。本当にありがとう!!

匿名

100の思い出 ～図書館と私～

静かに本を読むより、運動が大好き。子供の頃から本を読まず、本と縁のない私が図書館を利用する切っ掛けは、ガン発病。手術と入院治療で、家事一切したことの無い家族が、大変困り、私がいないとパニック状態。退院後再発しないで元気で長生きしてほしいという家族の強い願いもあり、ガンに関する本を読もうと思ったのです。読むのが遅く、読書が苦手でしたが、読み終わると次の本また次の本と、図書館へ通う私に変身できました。私なりに『食事と運動と心』だと思いうようになり、関連する本も読むようになれました。今、現在、元気で生きている私。それは全て図書館で、本を借り読むようになったからだ。感謝の思いでいっぱいです。読み易い本、読み難い本、心にストンと入る本、じっくりこない本、様々な本の中から私にピッタリな本を見つけることができるのも、図書館の素晴らしさです。図書館は私にとって、ありがたいとても感謝すべき、大切な存在です。

室谷 益子

心のふるさと豊橋市立図書館

私は 1932(昭和 7)年豊橋に生まれ、今日迄 80 年間豊橋に住んでおりますが、市立図書館は私の心のふるさとです。

1938(昭和 13)年、現在の市中央公会堂の東側に旧・旧図書館が新たに建設され、小学校に入学する前の私を、兄がつれていってくれました。その頃図書館の北側にあった旧吉田城の外濠の向うに、歩兵第十八聯隊があり、折々軍靴の響きや号令の声、又ラッパの音や軍馬の嘶きが聞こえてきました。この頃図書館で見た講談社の絵本の「支那事変画報」がつよく印象に残っております。

1941(昭和 16)年頃、ノモンハン事件の戦記もの「ノロ高地」と「ホロンバイルの荒鷲」を借りて読みましたが、“戦車恐れるに足らず”の感を軍国少年の私の心につよく植えつけました。

1944(昭和 19)年頃、ドイツの戦記もの「スターリングラード」(翻訳本)を借りて読みましたが、この時初めて独ソ戦争の実相の凄まじさを知らされた記憶があります。

1945(昭和 20)年、菊池寛全集第 1 巻を借り

て読んでいましたが、6月19日の深夜 B29 の空襲が始まり、その本を雑のうに入れて逃げました。その全集の中の「心中」の文章が今日に至るまで忘れることができません。

1946(昭和 21)年、図書館にも民主化の激流が押し寄せ、「自由評論」「民主文化」「解放」などの新刊雑誌や復刊した「中央公論」改造」などが本棚に並べられ、図書館の一隅から新しい時代の息吹を感じました。

1948(昭和 23)年、図書館 3 階の講堂で一週間連続の労働講座が開催され、私もそれに参加しました。

1950(昭和 25)年頃、高木俊郎の名作「インパール」に引き込まれ時のたつのも忘れ、閉館時 2 階の窓から眺めた夕暮れの焼あとの光影が、図書の本表紙の夕日が沈む荒涼とした戦場の描写と重なり、インパールとふるさとの敗戦の悲惨さを通感しました。これを機に高木俊郎の戦記シリーズに没頭するようになりました。

1953(昭和 28)年頃、図書館で同館所蔵の米軍政部貸与の英文の太平洋戦争に関する資料の存在を教えられ、この時から今日迄約 60 年間その史料を読み続けています。

1959(昭和 34)年、9月のある日の夕刻、今迄に経験したことがない猛烈な風雨が来襲し始め、その中を米軍貸与史料の「History of World War II」をかりて持ち帰ったことを憶えています。それがあの伊勢湾台風の当日だったのです。

1974(昭和 49)年、図書館に司文庫が開設されるや、同文庫に多数の第1次第2次世界大戦・アメリカの南北戦争・アメリカ史の英文の書籍及び世界の飛行機・航空母艦や潜水艦・戦車などに関する英文の資料があることを知りました。私は1970(昭和 45)年頃より、ふるさとに関する戦史を研究する会を主宰し講演・寄稿・著述に専念してきましたが、前記史料が大変役に立ち、80歳になる現在もそれらの英文史料を読み続けております。司文庫はふるさと豊橋の文化の泉であり、豊橋読書人の宝であります。

太田 幸市

100の思い出 ～図書館と私～

学業を一度離れてから、改めて資格取得試験にチャレンジしようと思い、勉強をはじめました。そこで、一度向山にある配本センターの2階の学習室をのぞいてみたところ、なんと、学生時代に教室で座っていたあの木のイスが並んでいました。早速座ってみると、学生の頃のあの座った授業中の感触がよみがえり、なつかしい気持ちで一杯になりました。

そして、勉強モードに入ることができ、何とか集中力もその椅子の感触からよみがえらせることができました。また、配本センター2階の学習室は、広さも広すぎず丁度よい空間の為、居心地の良い空間で勉強をすすめることができました。やはり、勉強する環境は大切だなあと実感いたしました。

ペンネーム 40さいの学生

100の思い出 ～図書館と私～

数年前のこと。医療事務の資格を取ろうと一念発起して勉強をはじめました。家ではなかなか集中力が出ませんでしたので、図書館へ行き勉強をしました。学習室では皆さん、様々な年代の方々が一生懸命勉学に励む姿があり自分も頑張ろうと気持ちを保つことができました。さらに丁度その頃七夕の時期で1階には笹の葉が飾られていました。これは…と思いたんざくに合格への思いを込め笹の葉にしっかり結ばせて頂き、改めて気持ちが引きしまり勉強に励むことができました。そのかいあってか難しいかなと思っていた試験になんと1発で合格することができました。どうやら図書館の七夕飾りには願いを叶えるパワーがあるようですよ。本当にどうもありがとうございました。

ペンネーム 星に願いを☆

100の思い出 ～図書館と私～

私は本が大好きです。そして何と言っても図書館という場所、雰囲気 genuinely 好きなのです。豊橋市の図書館には、本当に幼い頃からお世話になっていました。中学生までは、向山の配本センターへ行き、本を借り 2F の学習室で宿題を片付けました。高校生になり、中央図書館があらたに開館した時には、本当に大きく立派な図書館に、豊橋市民でよかった…ととても嬉しく思ったことをつい最近の事のように思い出します。とても誇らしく思いました。試験前になると学習室の席を確保する為に友達と約束をしよく集まっていたものです。最初の頃は、ワクワクしてなかなか勉強が手につかなかったことを覚えています。

この様に、成長と共に大変お世話になった豊橋市図書館…。100歳をむかえられたということで、大変嬉しく思っております。これからも私達市民が安心して利用できる誇らしい図書館として発展して行って下さることを心より願っています。宜しく申し上げます。

ペンネーム 本大好きっ子

100の思い出 ～図書館と私～

図書館では、インターネットを使って調べたり、新聞を見たりしました。行事に参加したりしました。図書館まつりでは、おもちゃを遊んだり、スタンプラリーをしたり、コメントを書いたりして、よかったです。いろいろな展示を見たりしました。本や資料を使って調べることをやって、よかったです。シンポジウムに参加してよかったです。今後も図書館で参加したいことを増やしていきたいです。

林 保宏

100の思い出 ～図書館と私～

もう 65 年も以前、図書館が八町通りの公会堂の東隣にあった頃の思い出です。

空襲で焼け残った立派な公会堂と三階建ての図書館は豊橋の文化のシンボルでした。

その頃、図書館で春休みの学生アルバイトの募集があり、私も友達数名と応募して採用されました。仕事は、何万冊もある図書館の本全部の分類を従来のものから、世界に通用する『日本十進分類法(NDC)』に切り替えるという膨大な作業でした。

市川寛館長から、新しい時代の図書館にする大切な仕事であるからとの励ましを頂き、リーダーの館員を紹介されました。キャップは後の館長の中村光雄氏でした。

まず NDC のしくみについて勉強をしてから、毎日何万冊もの本を、グループで討議しながら、新しい分類記号に改めて行きます。失敗やり直しもありましたが、慣れて来ると能率も上がり、時の経つのも忘れて遂に完了し、館長からお誉めの言葉を頂きました。

片桐 直彦

100の思い出 ～図書館と私～

僕は、小学校二年生の時はファンタジーや、SFは本当に実在すると思ってました。

しかし、学年が上がる度にいつしかファンタジー、SFなどはすべて夢の中にしか存在しない物となっていました。

月日が流れて、中学校一年生になりました。僕は、そのころ平日でも休日でも図書館に通い詰めになっていました。当時、僕はギリシャ神話を読みふけていました。ギリシャ神話に関する本を探している内に、一冊の本に出会いました。その本は、現代のアメリカを舞台にして、ギリシャ神話に出てくる、神々と人間との間に生まれた半神半人(ハーフ)がよみがえった魔物と戦うお話でした。このお話は、テーマとしている物が現代にあるものを使っており、とても身近に感じられるような内容でした。二巻を読んでいる内に僕は気付きました。頭の中に目で見ただけの文章が実態を持ち動いているのです。本は、僕にとってのファンタジーであり僕にとっての夢の中となりました。

ペンネーム 狼 P

100の思い出 ～図書館と私～

毎回10冊ずつ借りていて、5年間に約1000冊借りました。

読むのは私でなく主人です。

毎日図書館の本無くては過ごせません。ということで実際に本を読んでいないのに借りる係の私にはどれを過去に借りたかわからない為同じ本を借りることも度々で、今は作家別に借りた本を記入している帳面片手にチェックして借りています。

その帳面を図書館に忘れて問い合わせたところ、子供さんの宿題ですか?と帳面をみていわれた事がちょっと恥ずかしく、こんな事を続けている自分の事も面しろく感じました。

山田 ひろ子

100の思い出 ～図書館と私～

小さいときから来ていますが、いろいろな本があり図書館にくるときはいつも「今日はどんな本をかりようかな」などといろいろなことを考えながら来ています。カード1まいで貸出しする数をたまにすぎてしまったり、ぎりぎり10さつなどいつもたくさんかりています。よみたい本がかりられていても、よやくができるので、とてもべんりだと思いません。

また、昔からある本ばかりではなく新しいものもあるのであきたりしないのでよかったです。それに少しかえす日がおそくなってもよいのでとても安心しました。図書館はいろいろな本があるので家でもわくわくしてよむことができます。

ペンネーム クリーム

※返却日はまもってね！（編集者）

「図書館は人の交流のハブ空港」

1. 知り合いに あえる時がある
(例…浜松北区 渋川町長他同級生。同りよう。)
2. 千の風になってしまった なつかしい人の本が有る
(例…横山良啓氏)
3. 知り合った人々 豊橋地元だったり三遠南信の方の本を豊橋図書館に入れていただきうれしく思います。
(例…木下五郎氏一日展工芸家 渡辺なにがし氏ー渡辺建築川柳)
4. もっと早くにジム・ロジャースの世界一周(上、下)を読んでいたれば金持ちになれたと思う。

黄木 輝彰

100の思い出 ～図書館と私～

小学生の頃、歴史について班で調べて発表しなければいけない為、じどう室の外で、枯れ葉の散るところで、4人くらいで調査していました。今おもえば、結構、時間がかかっていたような気がします。まさか、その向こう側がグランドになるとは、当時思いもよらなかった…

3階の自習室で、勉強をしていた。それが19才のときだった。

そうしたら、高校1年生の時同じ部活だった子が勉強していた。

家が少し遠い子だったが、がんばっていたみたいだった。めずらしい子に会えた。

ペンネーム わおんちゃん

100の思い出 ～図書館と私～

豊橋市図書館との歴史はまだ4年位です。主人が本の大好きな人で、私はスーパーが近くという点でこの図書館のそばに引越してきました。平成23年に長男が生まれ、私も今まではそう行く機会がなかったのですが、絵本を借りたり、読み聞かせの会へ行くようになり接点はますますふえている所です。息子は絵本を読んでも紙をめくる事が楽しいようでしたが、このごろ数字やアルファベットに興味をもちはじめています。言葉も少しではじめたので来年の今ごろには自分で多少は読みはじめるかな?と思っています。

平成25年4月には新たな命がたん生予定です。次男なのか長女なのか…そんな事を考えながら図書館を走りまわる長男と、本を読みはじめたら私の話ほうわのそらの主人と4人楽しく図書館との沢山のエピソードに出会えたらと思っています。

これからも様々な本や出来事を届ける図書館、高齢ですが元気でいてくださいね!

稲田 千晶

100の思い出 ～図書館と私～

今の中央図書館が開館した時は中学2年で、平日だったと記憶しています。授業が終わったら即足を運び、貸出カードを作りました。当時は考古学等地域史を勉強していたので、豊橋市史や瓜郷遺跡等の調査報告書、当時開架にあった橋良文庫を貪るように読みました。開館時からあった資料検索用端末は、人生で初めて触れたパソコンでした。1992年8月、司書資格実習として2週間富安さんらにお世話になりました。貸出業務や寄贈資料の登録、レファレンス、閉架資料の出納や、市民館への配本作業を体験できたことは忘れません。2013年の正月に、10年ぶりに訪れました。書架等は変わっていないものの、職員のより親切的な対応など時代が変わったと実感しました。豊橋を離れ20年以上を経、司書職にもつきませんでした。今は複数の区立・都立・国会図書館や、博物館・美術館の図書室に、利用者としてお世話になっております。

西方 明雄

100の思い出 ～図書館と私～

私は、豊橋市図書館に行く時、自動車を南側の駐車場(グラウンド場に隣接)に止め、グラウンド場に沿い通路を歩いて図書館に入ります。この間には緑の木々が多く、初夏には山桃の木が赤紫色の実を付け、冬には椿の木が真っ赤な花を咲かせます。また、この実や花を求めて野鳥が来て、四季の移り変わりを感ずるときもあります。

私は田舎育ちです。子供の頃は、唱歌「故郷」の詩(兎追いしかの山 小鮒釣りしかの川…)にあるような自然がいたるところにありました。この通路を歩いていると無邪気であった子供の頃を思い出し懐かしい気分になります。

私は67才ですがこの年齢になると、懐かしい少年時代が原点のような気がします。良き環境に図書館があるお陰で、さわやかな気持で読書ができます。

加藤 國晃

100の思い出 ～図書館と私～

私は、お母さんのお腹の中にいる頃から図書館へと通っていました。お母さんが、私がお母さんのお腹の中にいる頃から、図書館に連れて行ってくれたからこそ、私が図書館を知るきっかけとなりました。図書館は、何度言っても飽きない位のレパートリーの本があふれていてとても素敵な場所です。沢山の本があるからこそ、自分が探している本の場所が分からない時等に、室内にあるコンピューターで検索したら、本がおいてある場所等の詳細が見られて助かりました。そして、予約や検索等の機能がついていて便利でした。私は、いじめ問題等の深い話の本が好きで本から学ぶ事も多々ありました。時には知人と出会ったり、時には知らない方が声をかけて下さります。図書館には私にとって本との出会いの場でもあり、学べる場でもあります。図書館の人はいつも温かくて、私自身も温かくなります。これからも、お母さんと一緒に自動車だったり、私1人で自転車だったり図書館へ通い続けます。これからもよろしくお願ひします。そして図書館にはお世話になり、いつも有難うの感謝でいっぱいです。図書館大好きです!!。

ペンネーム 花飴莉

100の思い出 ～図書館と私～

私はもうすぐ 50 才の主婦で地元出身。学生時代、豊橋を離れた時もありましたが、結婚と同じにもどり、すっかり地元人です。

小さい頃は母に連れられて通い、思春期は友人と、受験勉強と称して(??)学習室に通い、憧れの男の子を見つけては盛り上がっていました。

やがて、子どもと通うようになり その子ども達も、今は図書館、学習室を活用させてもらっています。めったに本を買わない私は図書館で色々な本を借り、活用させていただいています。

図書館の歩みにはその折々に種々な思いがあり、私にとって、とても貴重ななくてはならない存在です。

これからもよろしくお願いします。

ペンネーム けいこりん

100の思い出 ～図書館と私～

学校の図書館でない本がみつかったりするので読みたい本がいつでも見られるので中央図書館にくるのがうきうきします。

松橋 未来

100の思い出 ～図書館と私～

図書館に入ると、本のいいにおいがします。エジソンの本やモンゴメリの本などなどが大好きです。図書館に入るとさっそく昔の本をさがします。これからも本を大切にっかい大切によもうと思います。

ペンネーム ふうちゃん

私と図書館

色々な事を知りたい。

新しい知識を身に付けたい。

そんな希望をかなえてくれるのが図書館です。気軽に読み始めた一冊の本が人生の転機になった事もありました。

また、新たなきっかけを求めて、図書館を訪れたいです。

匿名

豊橋市図書館開館 100 周年記念冊子

100 の思い出

平成 26 年 1 月 15 日発行

編集・発行 豊橋市図書館 ©

〒441-8025 豊橋市羽根井町 48